

成人の鼠径ヘルニアについて

医療法人 小金井中央病院
外科部長 藤原 岳人

【鼠径ヘルニアとは】

鼠径ヘルニアはいわゆる“脱腸”のことで、乳幼児から大人まで様々な年齢で発症します。男性に起こりやすい病気（約8割が男性）です。

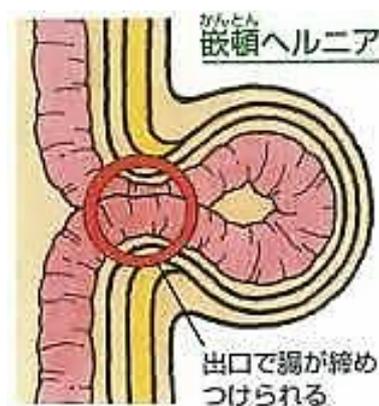
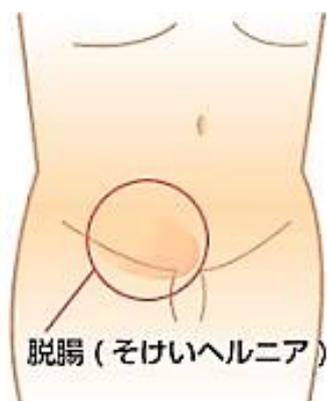
珍しい病気ではなく、年間14～16万人の方が治療を受けているといわれ、腹部外科領域の中ではダントツに多い一般的な病気です。



【症状】

鼠径部とは太ももの付け根の近くで陰毛に隠れる部分を指します。鼠径ヘルニアになると、お腹に力を入れた時に鼠径部の皮膚の下が腫れたり引っ込んだりします。脱出時に違和感や痛みを生じます。

腫れが急に大きくなり腫れた部分が押しても戻らなくなることを“嵌頓（かんとん）”と言い、緊急手術が必要となることがあります。



【原因】

成人のヘルニアも原因は子供のヘルニア同様、先天的にヘルニア嚢（袋）があり、加齢・肥満・腹圧が上がる（咳をよくする、力仕事をよくするなど）などが加わり発症します。その他、腹壁が弱るために穴があいてヘルニアとなる場合がありますが、症状は全く同じです。



【治療】

治すためには手術しかありません。

手術は鼠径部を5～6cmほど切開して、ヘルニア嚢（袋）がある場合はこれを切除します。次に“メッシュ”と呼ばれるポリプロピレンという材質でできた“人工の布”を用いて鼠径部に広がった穴を塞ぎます。



メッシュで使用されるポリプロピレンは世界中で50年以上前から人体に使用され、その安全性が確認されています。

麻酔は全身麻酔、脊椎麻酔、局所麻酔などで行うことができますが、当院では局所麻酔と鎮静剤を併用した体にやさしい全身麻酔で行なっています。

手術時間は平均して40分前後で、術後は当日から歩行・飲水もでき、翌朝から食事を再開します。手術前日に入院し、術後は2～3日で退院となります。

また両側性の鼠径ヘルニアの方や再発ヘルニアの方の場合は、通常の全身麻酔下に腹腔鏡を用いた鼠径ヘルニア手術を行います。



気になる症状がある方は、御遠慮なく外科外来を受診してみてください。

高齢者のせん妄について

医療法人 小金井中央病院
中央棟3階看護師長 関口 美和

<せん妄とは>

せん妄とは意識混濁に加えて幻覚・錯覚がみられるような状態です。入院患者のせん妄発症率は10～40%といわれ、主に高齢者や全身麻酔による手術等を受けた方に多くみられます。せん妄の発症時期は入院直後や手術後1～3日で、主なる病気の回復に伴い、せん妄症状も落ち着きます。認知症との違いはせん妄は発症時期が特定されるのに対し、認知症は明確にはわかりません。意識もせん妄は何らかの病気でぼんやりとした障害が生じていますが、認知症は意識自体は正常です。



<せん妄を起こしやすいのは>

上記に述べたように高齢者に多くみられます。高齢者は加齢に伴い身体機能が低下しているため、風邪などで体調を崩しただけでもせん妄を発症したり、入院という環境変化に順応できずせん妄を起こしたりします。

また、一日の中でもせん妄症状が悪化・改善を繰り返すことがあります。昼間は穏やかに過ごしているのに夜になるとそわそわし出すこともあります。



<せん妄の症状とは>

注意障害 …注意散漫で会話に集中できず話題が変わっても前の話を続ける

記憶障害 …昔のことは覚えているが最近のことは思い出せない

見当識障害 …日時や場所・人（身内も）がわからない

知覚障害 …幻視（実際には見えていないものが見える）

幻聴（実際には聞こえていないものが聞こえる）

錯視（実在するものを間違っって認知する →例 壁のしみを虫と思う）

思考障害 …妄想（現実には起きていないことを信じ込む →例 金を取られた）

精神運動障害…精神運動亢進（興奮・多動・多弁など）、精神運動抑制（自発的な言動がない・刺激に反応がない）

情動障害 …不安・恐怖・抑うつ・怒り・多幸・無欲など

睡眠障害 …不眠・断眠・昼夜逆転など

※認知症の症状と似ていますが、せん妄は原因となる病気の回復とともに症状が消失する一過性のものです



<入院生活でのせん妄>

自宅では何の支障もきたすことなく日常生活を過ごしているのに「入院したら、おじいちゃん（おばあちゃん）の様子がおかしくなった」と言われることがしばしばあります。認知症でない限り原因疾患の改善とともに症状が落ち着くのがせん妄です。私たち医療チームは患者さんの原因疾患に対し治療を行い早期に状態が改善するよう努力しています。環境においても日常の生活習慣に近い状況を作ることが大切だと考えます。

そのため入院生活の中で、せん妄を防ぐには家族の方に協力してもらうことも重要な要素となってきます。

普段の日常生活の情報を提供していただき、患者さんの生活リズムが入院という環境変化でせん妄を起こさないようにしていきたいと思っています。

患者さんにとって家族は大切な存在なので、できる限り面会に来て安心させてあげてください。

